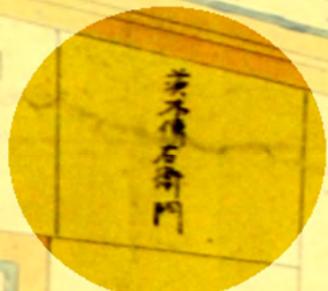
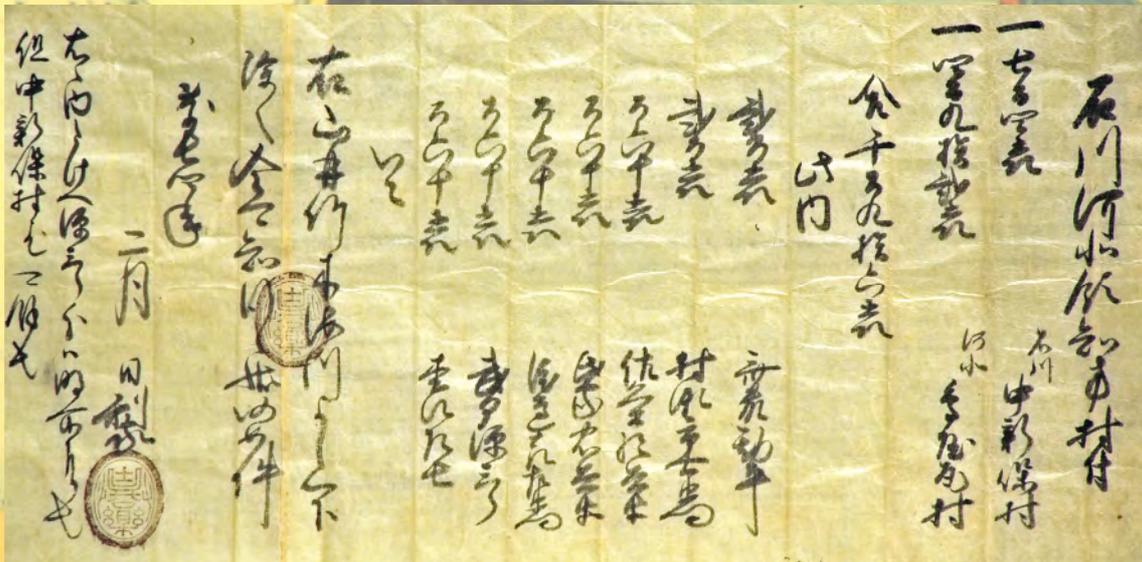
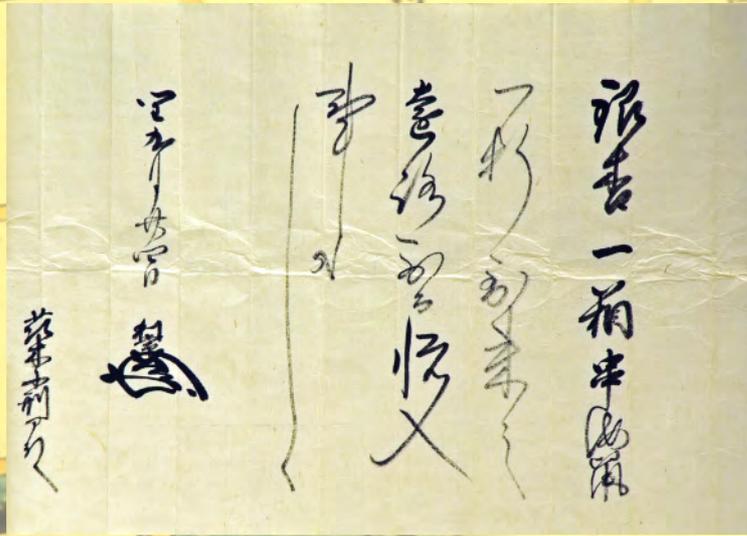


平成22年 新春展

茨木文書展

平成22年1月16日(土) ~ 3月14日(日)



金沢市立玉川図書館近世史料館

はじめに

平成 22 年新春の展示として、『茨木文書展』を開催いたします。本展示では、新たに当館の 35 番目の特殊文庫として加わる「茨木文庫」の一般公開に先立ち、その一部を紹介するものです。

茨木家は、加賀藩前田家に代々 2,050 石で仕え、重臣の八家、人持組に次ぐ平士クラスに当たり、平士の中でも禄高が最上位に位置する家柄です。茨木家に伝来された古文書は約 500 点からなり、知行宛行状など藩主の書状類に加え、家計、縁組、屋敷、家中（陪臣）など、藩士とその家中の実情を知ることが出来る史料も多く含まれています。

本展示では、茨木文書の中から加賀藩における武家史料の一例を紹介します。

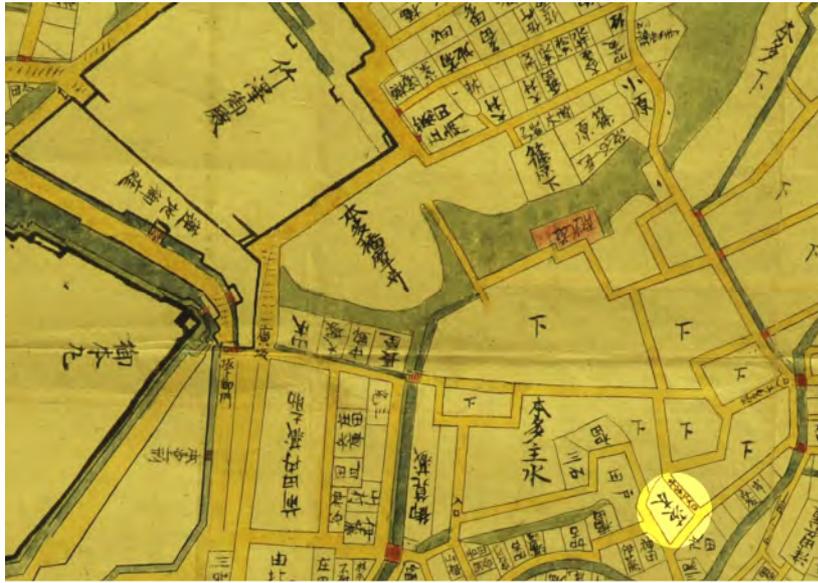


図 移転後の茨木家の屋敷地（金府大絵図、大 1005）

茨木家について

茨木家の由緒書によれば、初代助右衛門は前田利家に 200 石で仕え（代数は由緒書による）三代利常まで奉公し、元和 3 年（1617）に亡くなっています。二代源五左衛門（吉田数馬の三男）は、慶長 4 年（1599）に前田利常の小姓として召出され、慶長 18 年（1613）に茨木助右衛門の婿養子となり養家を継ぎ、たびたび加増を受け知行高は 2,550 石にまで達しました。隠居の際、1,500 石を嫡子の傳右衛門に、500 石を次男の権之丞に譲り、残りの 550 石を隠居料としました。三代傳右衛門以後、茨木家（本家）の当主は、代々 2,050 石の禄高を相続し、寺社奉行、宮腰町奉行、盗賊改方、越中境奉行等、藩の要職を歴任しました。また、茨木家の家臣の中には、郷土史家として著名な森田家（森田柿園）もいました。なお、金沢の町名である茨木町は、茨木家の屋敷が所在していたことによって名付けられた町名です。

史料解説

(史料番号先頭の35は茨木文庫、それ以外は本館所蔵史料を示す。)

1. 藩主・知行

- (1) 前田利家石川河北領知行状 35.15-1
慶長4年(1599)2月 利家 斎藤勘平ほか6名
石川郡中新保村(現白山市)の704俵及び河北郡鳥屋尾村(現津幡町)の492俵、合わせて1,196俵を斎藤勘平(茨木助右衛門)ほか6名に与えた前田利家書状。本文書が発給されたのは利家死去の2ヶ月前に当たる。
- (2) 前田利勝(利長)軍功扶持宛行状写 35.14-1
天正15年(1587)8月7日 利勝 吉田長蔵
豊前国岩石城の戦いでの褒美として、吉田長蔵(守政・数馬、茨木源五左衛門長好の父)に対し400俵の扶持を与えた書状の写。
- (3) 前田利長知行宛行状 35.14-2
慶長9年(1604)閏8月24日 利長 斎藤勘平
斎藤勘平に加増として50石の扶持を与えた書状。
- (4) 前田利常判物(銀杏・串海鼠到来に付) 35.11-1
(寛永19年〔1642〕)閏9月24日 利常 茨木小刑部
茨木小刑部(源五左衛門長好)より銀杏1箱及び串海鼠1折を贈られたことに対する前田利常の礼状。
- (5) 前田利光(利常)知行宛行状 35.14-5
慶長18年(1613)9月15日 利光 吉田小刑部
加増50石及び本地(知)100石、合わせて150石を吉田小刑部(茨木源五左衛門長好)に与えた書状。
- (6) 前田犬千代(光高)判物(大和柿・干鯛到来に付) 35.11-5
年未詳10月12日(寛永6年〔1629〕以前) 犬千代 茨木刑部
茨木刑部(源五左衛門長好)より見舞いとして大和柿1箱及び干鯛20枚を贈られたことに対する光高の礼状。
- (7) 前田利治判物(鱸到来に付) 35.11-7
年未詳4月9日 利治 茨木右衛門
茨木右衛門(源五左衛門長好)が鱸1折を持参したことに対する利治の礼状。利治は大聖寺初代藩主、前田利治である。

2. 勤仕

- (8) 御目付衆宮腰御越に付社并宮道掃除之旨達書写 35.18-1
(万治)5月8日 茨木右衛門長好ほか2名 寺中神主將監・権之丞
幕府の目付衆が宮腰を巡見に来るため、佐那武社(大野湊神社)神主の家屋敷の掃除を命じたもの。佐那武社に伝来した書状の写し。

- (9) 大勢院君（源五左衛門）御勤仕寺社奉行古記 35.18-2

承応2年（1653）～4年（1655）

卯辰山にある法華宗の慈雲寺が浪人の召抱えを藩に報告しなかったことから、今後は必ず寺社奉行へ報告する旨を寺社の組単位で誓約した書状を貼り継いだもの。

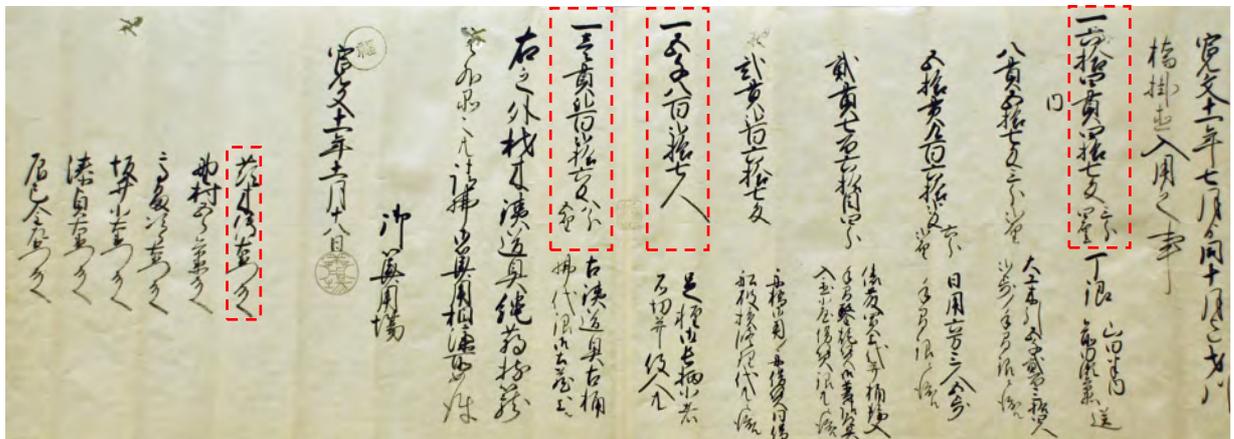
- (10) 寛文八年従伏木浦大坂并江戸登米出船入用之事 35.18-3

寛文8年（1668）8月10日 御算用場 茨木伝右衛門ほか3名

伏木より大坂及び江戸へ米を送った際にかかった費用 37 貫 861 匁 9 分 2 厘、足輕のべ 819 人、225 匁 8 分 2 厘について、算用（支払）が済んだことを茨木伝右衛門らに報告したもの。

- (11) 寛文十一年七月より同十月迄才川橋掛直入用之事 35.18-4

寛文11年（1671）11月18日 御算用場 茨木伝右衛門ほか5名



犀川橋の掛直しにかかった費用 64 貫 47 匁 3 分 4 厘、足輕のべ 5827 人、1 貫 226 匁 8 分 5 厘について、算用（支払）が済んだことを茨木伝右衛門らに報告したもの。

3 . 由緒

- (12) 諸士系譜 16.31-49

天保3年（1832） 津田信成

加賀藩士の系図を集めた編纂物。茨木家については、初代の助右衛門から8代の主殿忠順までが記載されている。

- (13) 金沢古蹟志 16.84-39

明治24年（1891） 森田平次（良見）

金沢の著名な郷土史家であり茨木家の家臣でもあった森田平次が記した金沢の地誌。茨木家の記述の中に、元主家であった茨木家への言及がある。2代目の茨木源五左衛門について、前田利常が「ねばき」（粘り強い、手強い）者ゆえ寺社奉行に任命したと本阿弥光悦に語ったという逸話が紹介されている。

- (14) 茨木源五左衛門先祖由緒并一類附帳 35.21-1

享和2年（1802）5月 茨木源五左衛門 前田大炊

茨木源五左衛門自道が先祖及び一類について藩に提出した由緒書の控えと思われるもの。

(15) 汲古雑帖 乾

35.21-2

(嘉永4年〔1851〕)

森田平之佑(良見)編

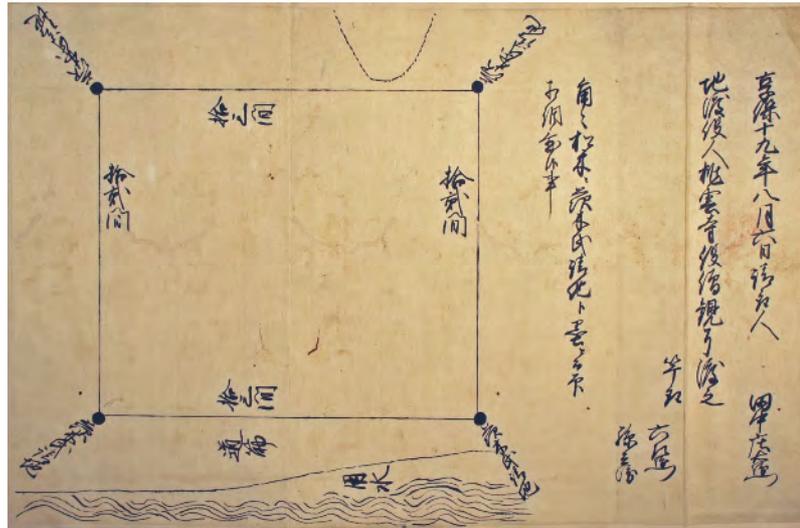


図 茨木家の野田山墓地

茨木家伝来の古文書を雑多に張り込んだもの。内容は、安藤次兵衛御暇一件、飛州御用一件、金銭貸借関係、墓地購入一件などからなる。

(16) 茨木傳右衛門遺言書

35.22-1

元禄6年(1693)8月18日

茨木伝右衛門 奥村壱岐

藩主より大分の知行を与えられたことを感謝し、備前則光の脇差と征矢 20 本を献上すること、嫡子左大夫を仕官させることを3代の茨木伝右衛門長重が年寄に願い出たもの。

4 . 家計

(17) 勝手方諸色図帳

35.23-1

延宝5年(1677)閏12月27日

茨木伝右衛門 神尾数馬・富永小右衛門

茨木家の人馬数、知行高、銀での収入とその支払(見積)を藩に提出したもの。「御勝手御簡略」の心得のため、以前に組頭へ提出した帳面の写しを再交付された。

茨木家の構成(延宝5年(1677))

家中

4人	上分	母・自分・せがれ・お婆
3人	給人	
3人	給米取	
12人	若党	
18人	下々男	
13人	女房	
53人		

馬数

2匹	乗馬	
----	----	--

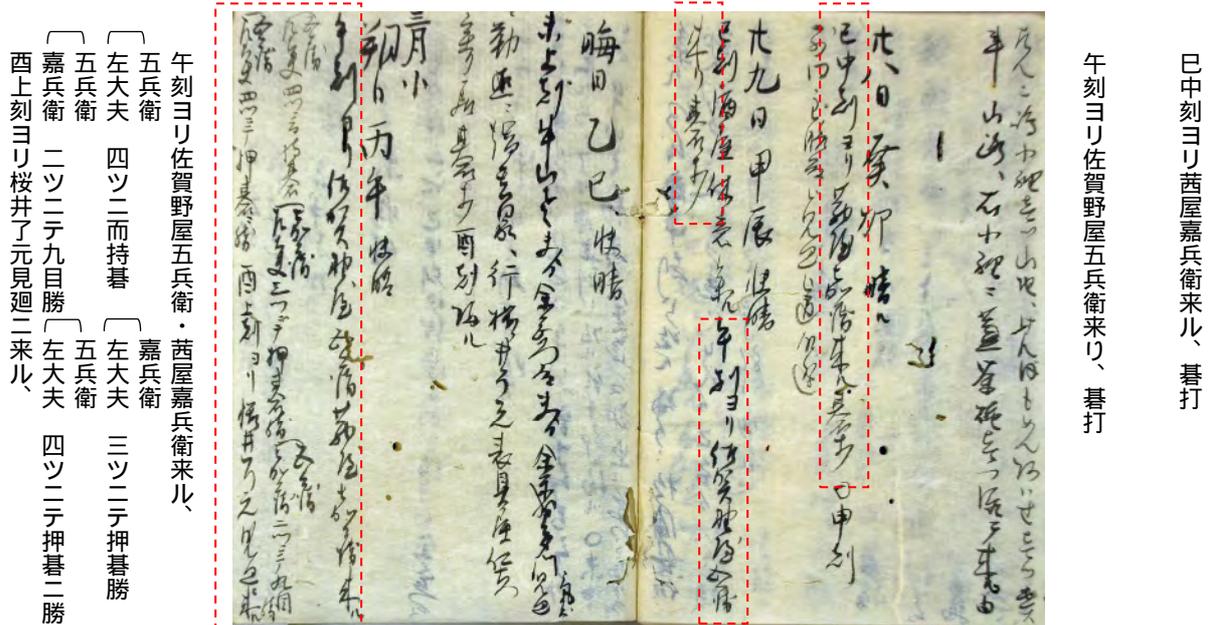
35.23-1「勝手方諸色図帳」により作成

5. 日記

(18) 日記

35.24-1

宝暦 10 年 (1760) 正月



茨木左大夫道啓の日記。囲碁好きだったらしく、佐賀野屋五兵衛ら出入の町人との対局結果が記されている。

6. 縁組

(19) 茨木源五左衛門孫娘縁組願一件

35.25-1

辰 6 月 15 日・7 月 22 日 茨木源五左衛門 奥村因幡ほか 3 名
孫娘縁組幹旋願、孫娘・甥吉田次右衛門縁組願 (以上 6 月 15 日) 藩主御意に付請書差出方に付書状 (7 月 22 日) からなる。

(20) お鉄様婚礼御用諸事留

35.26-1

安政 5 年 (1858) 11 月～

茨木忠恕の娘、鉄と山本久太郎との婚礼に関する記録で、筆跡から作成者は森田平之佑 (平次) と考えられる。酒屋太四郎、一丸甚六、大豆田屋又右衛門、戸水屋太蔵の 4 人の町人が茨木家の婚礼御用を承ったことなどが判る。

7. 屋敷

(21) 仙石町御居屋鋪古図并新屋敷二可建御住居之絵図等

35.29-1

年月日未詳

茨木家の屋敷図はこれ以外にも何枚か残されているが、これは「仙石町」の屋敷図と明記されているもの。武家屋敷の間取り (構成) が判る貴重な史料である。

(22) 延宝年間金沢城下図

090-598

大正 2 年 (1913)

氏家栄太郎写

茨木家の屋敷はもと仙石町 (現在の香林坊一丁目・広坂二丁目、中央公園付近) にあったが、宝暦 9 年 (1759) の大火の後、火除地となり、本多家下屋敷地内 (現在の茨木町辺) に移転し、廃藩置県までこの地に居住した。

8 . 家中

- (23) 自道（源吾左衛門）知行宛行状 35.32-7

安永7年（1778）7月6日 自道（茨木源五左衛門） 森田武右衛門
茨木源五左衛門自道が家臣の森田武右衛門に加増知10石、合わせて50石を与えるもの。森田家はもと人持の中川家に仕える家柄であったが、森田平次の曾祖父にあたる武右衛門が茨木家に仕えて分家し、以後代々茨木家に仕えた。

- (24) 松原源吾一類附 35.33-1

天保13年（1842）12月
松原源吾が茨木家に仕官した際に、同家の山川十郎兵衛・森田大作に提出した由緒帳。茨木家には他にも幕末期のものが十数点残されており、陪臣の仕官、異動が頻繁なものであったことを窺わせている。

- (25) 永嶋喜兵衛由緒一類附 35.33-2

弘化4年（1847）9月 永嶋喜兵衛 山川恒左衛門・坂井五大夫
永嶋喜兵衛が茨木家に仕官した際に、同家の山川恒左衛門・坂井五大夫に提出した由緒書。

- (26) 宗門相改帳 35.34-1

寛文4年（1664）7月27日 茨木源五左衛門
茨木家及びその家臣の宗門改帳。幕令では、寛文4年（1663）諸藩に宗門改の作成を命じているが、それ以前から加賀藩においては領内で宗門改帳が作成されていた。藩士の宗門改帳が残っているのは珍しい。

9 . 学芸

- (27) 蕉風分院開設の祝辞 35.42-10

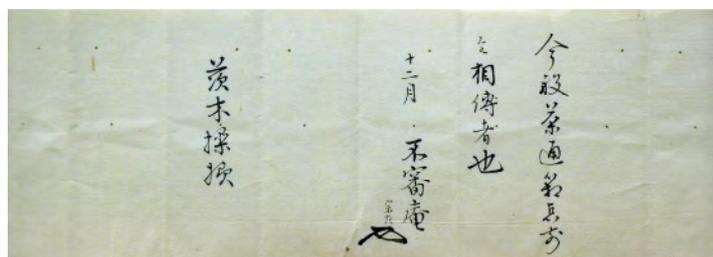
（明治19年〔1886〕） 尚友庵亀水
「俳諧も神道のひとつ」と記されているように、この時期蕉風俳諧の継承を目的とした結社が各地に設立されていた。本史料は金沢高岡町に蕉風教会の金沢分院を設立した際に茨木操が設立の趣旨を記したもの。

- (28) 茶会記 35.47-3

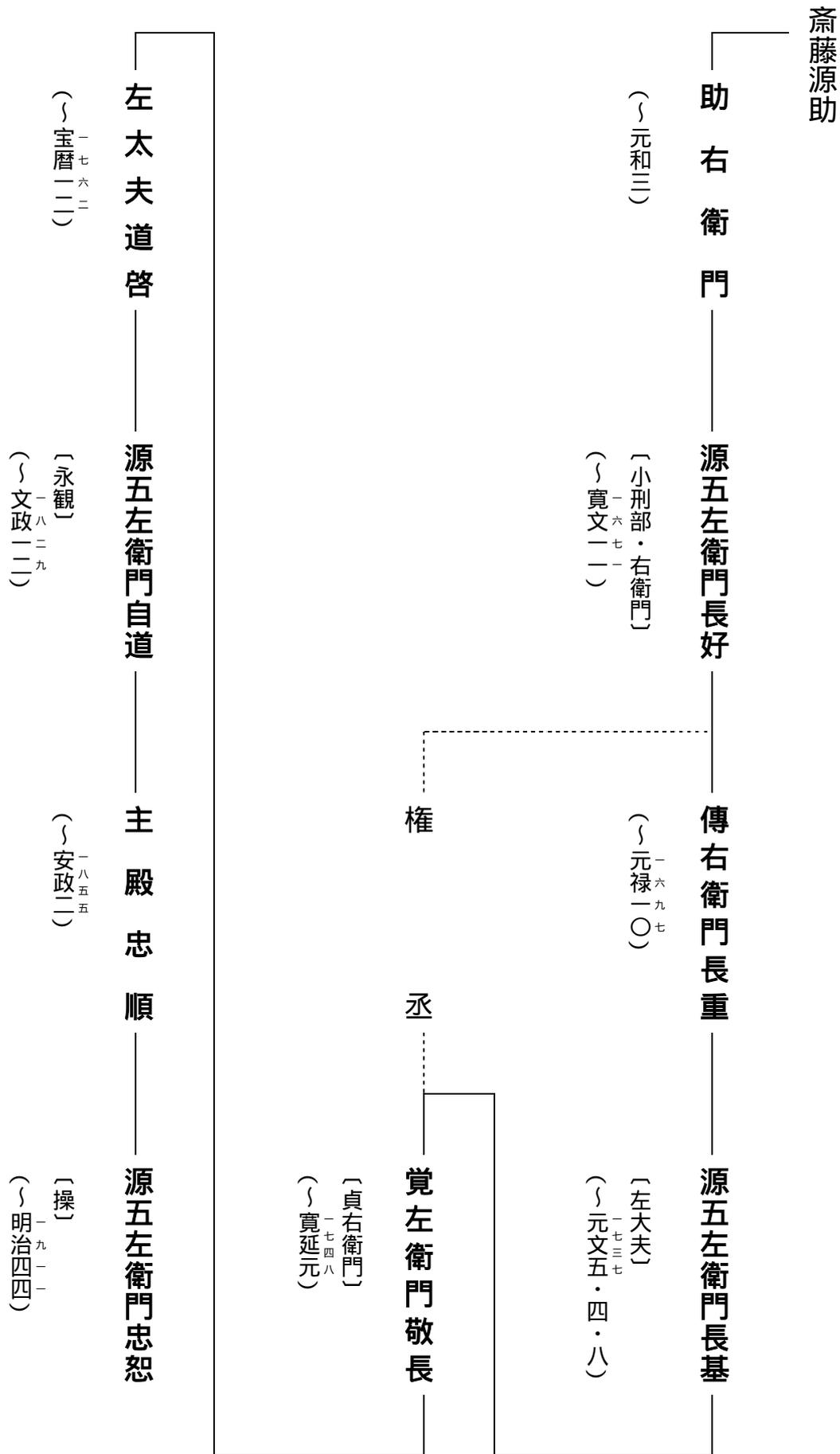
明治7年（1874）～9年（1876）
明治期に茨木操が参加した茶会で使った掛軸・道具類や、料理献立を記したもの。

- (29) 不審庵相伝書 35.47-5

年未詳 12月 不審庵宗左 茨木操



茶道箱手前と唐物点の相伝書（免状）。不審庵は表千家の家元。



表紙の写真 背景：延宝年間金沢城下図 (090-598)
 中央上：前田利常判物 (35.11-1)
 中央下：前田利家石川河北郡領知村付 (35.15-1)

なお、掲載史料と展示史料は一致しないことがあります。